

令和7年度 学校経営方針

世田谷区立深沢小学校
校長 須藤 央

1 教育目標と学校経営理念

《教育目標》

- 自分から進んで学ぼう
- ◎ 友だちをたいせつにしよう
- 力を合わせてやりぬこう
- 健康ながらだをつくろう

【教育理念】-----

「教育」とは「教え」「育てる」ことであると言われている。

「教え込み」だけでは心は育たないし、「育てる」ことを盾にとった放任だけでは無秩序な状態に陥ってしまう。小学校6年間、各学年の1年間、さらには学期ごと、教科ごと、一時間の授業ごとに、指導する側が「何を学ばせ」「どのように学ばせ」「何ができるようにさせるか」を明確にもつた上で授業に臨み、「教え育てる」ための授業力の向上を常に目指していく必要がある。

「教育は人なり」。小学校においては特に、教え、育てる主体者の教師の影響を良くも悪くも強く受けて児童は育つ。教師自身は、多大な影響力をもつからこそ、一人一人がそれを自覚し、日常の教育活動に取り組みながら自己研鑽に励み、昨日よりも今日、今日よりも明日へと日々成長していかなければならないのである。

以上のことから勘案し、本校の教育目標の中でも「友だちをたいせつにしよう」を重点に、世田谷区の教育目標、「幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育」の実現を目指し、以下の理念のもと、学校経営を進めていく。

【経営理念】-----

育成 【人を育て、自分も成長する】

を経営のスローガンとし、児童も教職員もそれぞれが周りの人のために自身の力を発揮することに喜びを感じ、自分自身の成長がみんなの幸せにつながっていくことを実感できるよう教育活動を進めていく。

児童、教職員それぞれの「成長」のために、以下の三つの「育成」を柱に据えて学校経営を進めていく。

「児童育成」

学校教育における大きな役割である、「知育・德育・体育」に尽力し、一人一人の児童の育成を図る。

また、児童自身が自らの成長を実感できるよう、あらゆる教育活動において、折に触れ自分自身を振り返る機会を設ける。

「組織育成」

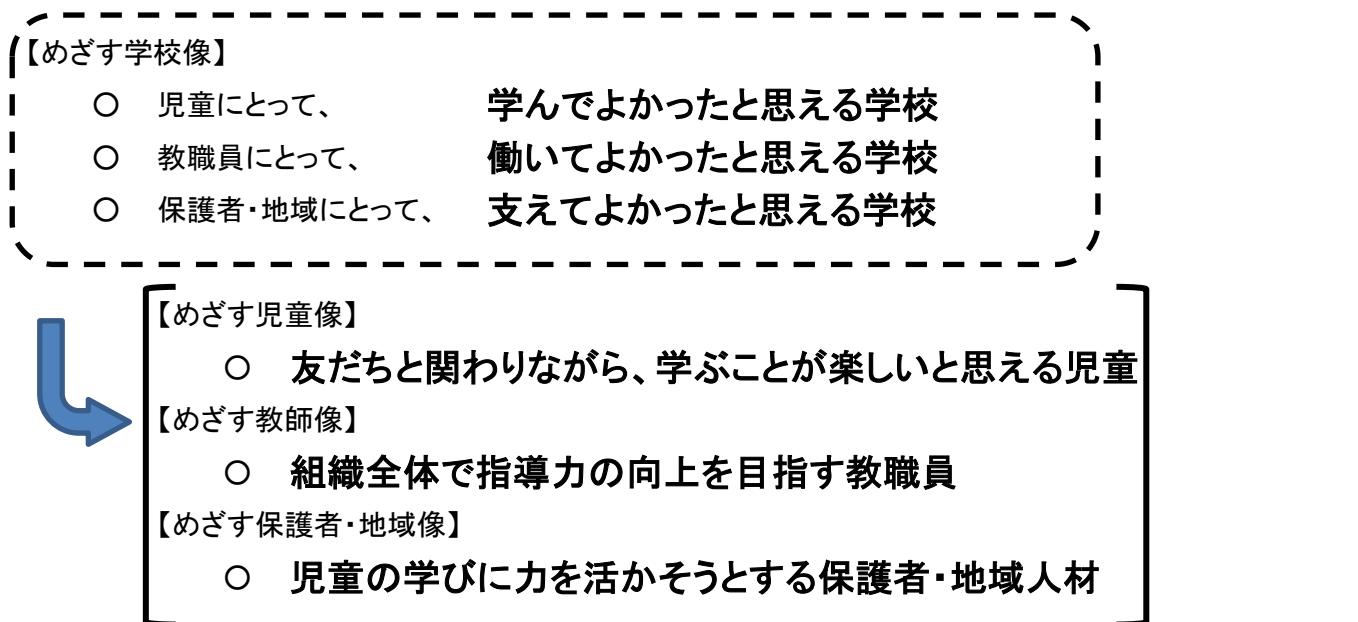
児童育成を確実に推進するためには、組織の育成は必要不可欠である。学校組織を構成するあらゆるメンバーが、コミュニケーションを円滑にし、学び合い、高め合いながらより強い組織を育成する。

自身の授業力向上だけでなく、互いに授業を見せ合い、組織全体で授業力を向上させていくとする気風を醸成させていく。

「自己育成」

組織力をより向上させるためには、教職員一人一人の自己育成は欠かすことができない。教育環境の最大の資源は、教員である。職員一人一人が研修・研鑽を積み、自身の授業力向上に努める。そして、教員自身も常に自己を振り返り、自分自身の成長を見つめなおす機会を設けると同時に、職務改善を図り、時間外勤務時間の削減に努め、教員個々のプライベートを充実させられる環境の構築を目指す。

以上を基本方針の柱とし、次に示す「めざす学校像」につなげていく。



2 基本方針

- (1) 探究的な学びを通して確かな学力を培う 【児童育成】《重点》
- (2) 思いやりのある子を育てる 【児童育成】《重点》
- (3) 体力の向上と健康の保持増進を図る 【児童育成】《重点》
- (4) 計画的・組織的な学校運営を進める 【組織育成】
- (5) 自己研鑽・ライフの充実を図る 【自己育成】
- (6) 家庭・地域との連携を深める 【地域連携】

3 具体の方策

(1) 探究的な学びを通して確かな学力を培う 【児童育成】

- ① 基礎学力の定着のために、その大前提となる学習規律の徹底を図る。
その上で、協働的な学びの機会を設け、めあてに対しての自分自身の学びの振り返りをし、自己の学びの成果を実感させる。
- ② iPadを学習の文房具として効果的に活用しながら、対話的な活動を通して、調べ、まとめ、発表する機会を多く設定する。
- ③ 研究主任を中心として、校内研究を組織的に進めながら授業改善を図り、探究的な学びを実践する。

(2) 思いやりのある子を育てる 【児童育成】

- ① 人権を尊重し、生命を尊重する教育を徹底するために、褒めるときはより具体的に褒め、叱るときはその児童の感情の言語化に努め愛情をもって叱る。欠点を指摘するよりも長所を伸ばすことを中心に重点を置いた指導を充実させ、個性や良さを見つけ、励まし、引き出し、のばしていく指導の充実を図る。
- ② 道徳学習を充実させ、相手を思いやる心と社会の一員としての義務と責任を果たすことの重要性を理解させるとともに、常に自己変革を図り自らの生き方に意味づけできるような資質や能力を育てる。

- ③ 深沢なかよし班活動を通して、上級生としての意識を高めるとともに、互いに協力してより良い学校を築いていこうとする自主的・実践的な態度を育てる。
- ④ 児童会活動やクラブ活動では、自主的・自治的な活動を重視し、興味・関心をもって、互いに児童が関わり合いながら創意工夫をして活動に取り組めるように適切な支援をしていく。
- ⑤ 学校・家庭・地域が連携をして、集団としてのけじめや規律を守り、楽しい学校生活が送れるように生活指導の徹底を図る。
 - (ア) 「ふれあいあいさつ運動」を行うことにより、進んであいさつができる児童を育成していく。
 - (イ) 学校運営委員会や学校関係者評価委員会と連携し、地域の力を日々の教育活動に活かしながら体験的な活動を充実させる。(深沢工房、ぎんなん祭り、自然の教室etc)
 - (ウ) インターネットとの付き合い方について、家庭と連携して情報モラル教育をすすめる。

(3) 体力の向上と健康の保持増進を図る 【児童育成】

- ① 日常的に中休みや昼休みに外遊びを奨励するとともに、なわとび・持久走週間等、年間の中で計画的に実施する体育的活動を通して、児童の体力向上を図る。
- ② 心と体を一体としてとらえ、心身ともに健全な発達を促進するために、発達段階に応じた保健指導を工夫するとともに、規範意識を高め、公正な態度の育成を図る。
- ③ 児童の体力の向上と健康の保持増進をさらに図るために、体育部を中心となり、体力テストの結果を分析し、改善提案をし、それをもとに全校で取り組んでいく。
- ④ 好き嫌いをせず、栄養のバランスを考えて日々の食事をすることがいかに大切であるかに気付かせるために、栄養士と連携を深めた栄養指導や食育指導の充実を図る。
- ⑤ 養護教諭との連携を密に図り、発育測定等の機会を活用し、睡眠や朝ごはんの大切さ、ケガの適切な処置の仕方等について、養護教諭による保健指導を行い、健康の保持増進を図っていく。

(4) 計画的・組織的な学校運営を進める 【組織育成】

- ① 経営理念の柱の一つである「組織育成」を推進していくために、喫緊の教育課題解決に向け教員研修の充実を図るとともに、互いの授業を参観し合う機会を設け、互いに磨き合いながら授業力向上を図る。また、校内研究を充実させ、組織的に「キャリア・未来デザイン教育」を推進する。
- ② チームとしての学校力をつけていくために、教職員一人一人が組織の一員としての自覚を深め、各主任としての役割を自覚した率先垂範した職務遂行を推進していく。校務分掌を精選し、主任を中心とした組織体制の中で担当の仕事を明確化することで、組織のスリム化を図る。
- ③ 育成システム(OJT)について、学年内での育成、校務分掌を通しての育成が進むよう、主任層が若手層を支えながら職務遂行できるシステムを構築する。
- ④ 教育公務員としての職責を果たすために、「全体の奉仕者」であることの自覚と責任を常に持ち、法令を遵守し、服務の厳正に務め、職務に専念していく。
 - ・ 週案簿は毎週必ず提出し、管理職からの承認を得る。
 - ・ 「めざす教師像」の実現のため、研修及び自己研鑽を深める。
 - ・ 服務義務(法令に従う、秘密を守る、信用失墜行為の禁止など)を遵守する。

- ・ 児童の指導に当たっては、体罰を加えるようなことを絶対に起こしてはならない。
 - ・ 安全・安心を第一にした児童管理を行うために、危機管理意識をしっかりともち、事故を未然に防ぐための迅速な行動をとる。
 - ・ 出退勤の時間、提出物等の期限を厳守する。そのために、計画的に職務に当たる。
 - ・ 会議の精選をし、能率的な運営を図る。欠席者は記録簿を必ず見て内容を確認する。
 - ・ 来校者には誠実な態度で接し、失礼のない対応を行う。
- ⑤ 学校予算の適正な編成と執行を行うために、年度当初に予算を計画的に立て、予算執行の共通理解を図るとともに、毎月の執行状況を確認する。また、公文書や個人情報にかかる文書管理についても適正な保管と活用を図る。

(5) **自己研鑽・ライフの充実を図る** 【自己育成】

- ① 区や都が主催する研修や研究の機会を積極的に活用し、教師としての自己の力の鍛磨に努める。
 - ・ 教師道場、研究員などの積極的な挑戦 東京都教職員研修センターの専門性向上研修
 - ・ 指導教諭による模範授業(通年で開催)の参観に、積極的に申し込む。
- ② 常に校務精選の意識をもち、一人一人が自身の働き方を改善しようとする意識を高める。
効率よく職務を遂行する能力を養い、自身のライフを充実させながらワークの向上につなげる。
 - ・ 月の時間外在校時間を**45時間以内にできるよう、効率的な職務遂行に努める**。
 - ・ 一日の在校時間**10時間30分以内を目標**とする。職務改善の意識をもち、効率化に努める。
 - ・ 前例にとらわれず、スクラップ＆ビルトの視点で職務を遂行し、教育の質を落とさず、精選、削減できることを探し積極的に提案をする。(校内研究の新しい形、学校行事等の在り方etc)

(6) **家庭・地域との連携を深める** 【地域連携】

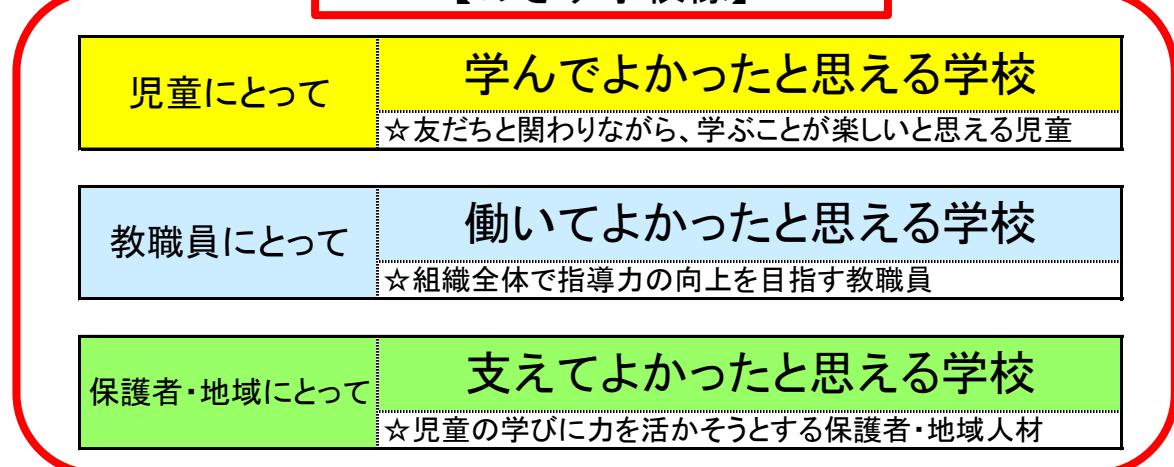
- ① 家庭、地域、関係諸機関との連携を深め、児童が校内・校外で安心・安全に生活できるように保護者地域人材の学習支援(学習ボランティア)を積極的に活用する。
- ② 地域に根差し開かれた学校を創造していくために、地域行事に積極的に参加するとともに、地域の力を日々の授業に取り入れ、地域とともに児童を育てる意識を常にもつ。
- ③ セーフティ教室や不審者対応訓練など、様々な状況を想定した訓練を実施し、安全管理体制を強化するとともに、児童の安全を守る意識の向上を図る。
- ④ 学校公開、校内研究、道徳授業地区公開講座、学校ホームページ、学校だよりや学年・学級だより等を通して、学校の様子や状況を積極的に発信し、開かれた学校を目指す。
- ⑤ 学校関係者評価委員会を中心とした客観的評価を活かし、学校運営委員会とともに継続的に学校運営を見直し、組織をアップデートしていく。

令和7年度 学校経営方針（ビジュアル版）

世田谷区立深沢小学校
校長 須藤 央

教育目標	・自分から進んで学ぼう ・力を合わせてやりぬこう	◎友だちを大切にしよう ・健康なからだをつくろう
------	-----------------------------	-----------------------------

【めざす学校像】



3つの「育成」を柱にしながら…

